

地域協議会の取組

霧島ノウフク連携コンソーシアム

(対象地域：霧島市，始良市，湧水町，伊佐市)

協議会の概要

農業の担い手不足と福祉分野における就労機会の拡充という地域課題を解決し、農業と福祉の共生による新たな価値創出を目的に設立。地域資源を生かした持続化可能なまちづくりを目指し、農業と福祉の連携（農福連携）を推進しています。

- ・設立日 令和6年1月30日
- ・所在地 霧島市溝辺町有川179-6
- ・会員構成 農業者，福祉施設，一般社団法人，民間企業など11会員，顧問1名
- ・事務局 合同会社AGRITZ



設立の経緯

現・副代表の有村氏（ここゆ農園）が、農福連携に取り組む中で、個人としての活動の枠を超え、学びや発信の機会を広げるとともに、農福連携の新たな価値を創出したいと考え、コンソーシアムの設立を発案。

連携先であった（株）心和の代表で、現在、コンソーシアム代表を務める瀬戸口氏，霧島市議会議員で合同会社AGRITZ代表の今吉氏の賛同を得て令和6年1月にコンソーシアムを設立。



取組概要

1 農福連携の推進

- ・農業研修プログラムの提供（障害者向け）
障害福祉サービス事業所に対し、農業の技術指導を実施。
- ・作業支援サービスの展開（施設外就労）
障害福祉サービス事業所が農作業を支援。
- ・農作物のブランディング・販売支援
コンソーシアムでのノウフクJAS取得（R7.3月予定）と会員への品質管理指導。



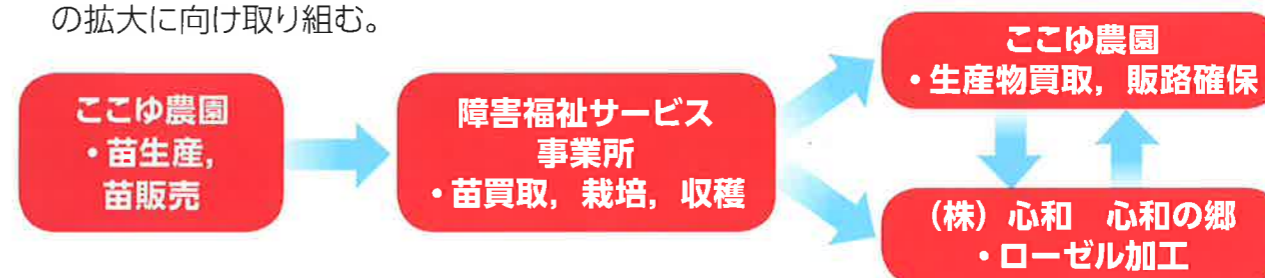
2 人材育成・マッチング

- ・農業×福祉のマッチングイベントの開催
鹿児島空港等でのノウフクフェアの実施
- ・農業従事者向け福祉研修，福祉従事者向け農業研修の実施
農業と福祉それぞれの理解を深めるための研修を実施
- ・農福連携アドバイザーの育成
農業技術指導者の育成
農福連携の現場で技術的支援を行うアドバイザーを育成



3 事業創出・地域資源の活用

- ・農産物加工・販売事業の支援
農福連携により栽培する品目として、ローゼルを選定。
ローゼルの苗生産→栽培→加工→販売を会員間で連携して実施。ジャムやゼリー，業務用商品として商品化し，小売店や物産館，食品製造会社に販売。現在，更なる販路の拡大に向け取り組む。



ノウフク商品マーク

実践において留意すべきポイントと農福連携の効果

- ・農福連携を実践する際には、作業の習熟度に関わらず誰もが取り組めるよう、指示の工夫や作業環境の整備が有効である。（具体例：イチゴの葉かき作業において除外する葉の具体的な状態を教えるのではなく、紙を丸く切り、この円からはみ出ている葉をとるよう指示）
- ・障害の程度にかかわらず、全員が作業に関われるよう作業難易度を下げるため、ユニットを組み、一つの作業を分解して取り組む方法も実践している。（具体例：定植作業であれば、セルトレイから苗を抜く者，それを植え穴に配置する者，植える者のように作業を細かく分ける）
- ・農福連携のメリットとして、福祉側においては工賃向上や障害者の就労機会の確保，農業者にとっては労働力の確保が挙げられる。一方で、実際に取り組む中で実感しているのは自分自身が優しくなったということ。
農福連携を通じて自然と他者に対する思いやりが深まり，人格的な成長につながるのではと考えている。